

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ピノキオ幼児舎高円寺南保育園
法人名	株式会社ピノーコーポレーション
法人所在地	杉並区高円寺南4-26-16ピクトリアプラザ高円寺3階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

虫

<テーマの設定理由>

1歳児クラスの頃から、公園や散歩道で見かけるダンゴムシやアリに興味を示し、虫の動きをじっくり観察する姿が見られていた。その様子から、子どもたちの身近な環境の中にいる虫を題材にすることで、虫の体のつくりや成長の様子、食べ物などについて興味を広げていけるのではないかと考え、本テーマを設定した。戸外活動の中で出会った虫をきっかけに、観察や飼育を通して子どもたちの疑問や発見を深めていくことを目的とした。

2. 活動スケジュール

季節によって目にすることができる虫が異なる為、戸外活動の中で出会った虫を取り上げて探究活動を行った。季節ごとに出会う虫を取り上げることで、自然の変化や生き物の違いに気づく機会となるようにした。

- ・4月～12月：ダンゴムシ（飼育・観察）
- ・4～6月：あおむし、アゲハ蝶（飼育・観察）
- ・5月～3月：メダカ（飼育、観察）
- ・8月～9月：セミ、セミの抜け殻（観察、収集）
- ・11月：カマキリ（観察、触る）
- ・2月～3月：アリ（観察、飼育予定）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

虫への関心や発見が広がるよう、図鑑や飼育環境などを整えた。様々な種類の虫が載っている図鑑と虫の体の仕組みが分かる本を購入した。

【ダンゴムシ】

- ・虫かごで10匹以上を飼育し、枯葉、水、胡瓜などを定期的にとりながら観察した。
- ・ブロックや紙コップ、枯葉を使ってダンゴムシ迷路を作り、動き方を観察できるようにした。
- ・好きな食べ物を調べるため、きゅうり・チーズ・ナスなど複数の食材を置いて食べ方を観察した。

【あおむし、アゲハ蝶】

- ・虫かごを縦にして置き、柚の葉を入れて飼育した。

【メダカ】

- ・水槽に小石やエアレーションを入れ、定期的にとりながら観察できる環境を整えた。

【アリ】

- ・アリの巣の様子を断面で観察できるキットを用意した。
- ・アリの巣のある公園を選び、定期的に観察を行った。
- ・アリが好む食べ物を予想し、実際に置いて観察できるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

戸外活動の中で出会った虫をきっかけに、子どもたちの興味や疑問を起点とした探究活動を継続的に行った。はじめは散歩中に見つけたダンゴムシの観察や飼育から始まり、食べ物や動き方などに関心を広げていった。食べ物を変えて観察したり、迷路を作って動きを見たりする中で、生き物の特徴や行動に目を向ける姿が見られるようになった。

その経験から生き物の成長への関心も高まり、あおむしやアゲハ蝶の飼育を通して成長の過程を観察した。また、メダカの飼育や、セミ・カマキリなど季節ごとに出会う虫の観察へと関心が広がった。さらにアリの巣をきっかけに、生き物の生活や行動にも目を向けるようになり、観察を通して理解を深めていった。

子どもたちは、戸外で出会った虫や生き物を通して、観察や飼育の経験を重ねながら、生き物への関心や理解を少しずつ深めていった。

【ダンゴムシ】

散歩道で見つけたダンゴムシを虫かごやペットボトルで飼育し、水や枯葉、胡瓜などを与えながら観察を行った。給食やおやつで出た胡瓜やスイカを与え、食べる様子を観察した。

また、胡瓜・チーズ・ナスなどを用意し、どの食材を好むのかを予想しながら観察した。ブロックや紙コップ、枯葉を使って迷路を作り、ダンゴムシの動き方を観察した。

赤ちゃんダンゴムシや抜け殻を見つけた際には、大きさや色の違いにも気づく姿が見られた。

最終的には、年末に自然へ返した。

【あおむし、アゲハ蝶】

ダンゴムシの観察を通して生き物の成長への関心が高まる中で、あおむしの飼育を行った。

柚の葉を入れた虫かごで飼育し、子どもたちは保育者と一緒に葉の入れ替えや霧吹きを行いながら観察を続けた。卵 → 幼虫 → 蛹 → アゲハ蝶へと変化していく様子を定期的に写真に残しながら観察し、成長の過程を継続して見る経験となった（3匹）。

羽化したアゲハ蝶は室内で放ち、飛ぶ様子を観察した後、戸外へ自然に返した。その後、写真カードを使って成長の順番を並べ替えながら振り返りを行い、生き物の成長について理解を深めた。

【メダカ】

虫の観察だけでなく、身近な生き物の動きや環境にも関心が広がるよう、保育室内でメダカの飼育を行った。子どもたちは餌をあげたり水槽をのぞき込んだりしながら観察を続け、生き物が水の中でどのように動くのかに関心を持つ姿が見られた。虫とは異なる生き物の環境や動きにも目を向ける機会となった。

【セミ、セミの抜け殻】

夏になると散歩中にセミの鳴き声が聞こえるようになり、その声を手がかりにセミを探す活動を行った。木の下で見つけたセミの抜け殻を拾い、虫眼鏡を使って観察した。抜け殻をフェルトで作った木に飾ることで、セミの成長や季節の変化を感じることができた。

【カマキリ】

図鑑で見ていたカマキリを実際に見つけたいという思いから、公園で探す活動を行った。見つけた際には、ロープを逆さまに歩く様子を観察したり、体に乗せたりして、生き物の体の動きや形に興味を持つ姿が見られた。図鑑で見た生き物を実際の環境の中で発見する経験となった。

【アリ】

散歩の中でアリの巣を見つけたことをきっかけに、アリの行動を観察する活動を行った。砂糖を近くに置き、アリが食べ物を運ぶ様子を観察した。また、アリが好みそうな食べ物を予想し、複数の食材を置いてどの食べ物に集まるのかを観察する活動を予定している。今後はアリの巣キットを用いて巣が作られていく様子を観察し、アリの生活について理解を深めていく予定である。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・見つけた虫を見るだけでなく、触ったり、飼育したりすることを喜んでおり、毎日観察を楽しんでいた。アゲハ蝶のあおむしやダンゴムシの成長に気付き、保育者や友達、保護者に伝えていた。

・特に食べ物をあげることを喜んでおり、ダンゴムシに胡瓜やスイカをあげたり、他に何が好きかを考えたりしていた。給食時に活動で使用した食べ物が出てくると、子どもたち自身で気づき、意欲的に食べていた。

・季節によって出会える虫が違っていたため、散歩の際にどんな虫がいるのか探していた。初めは虫に触れることをためらっていた子ども、経験を重ねる中で少しずつ触れるようになり、触り方や力加減を学んでいった。

・また、これまでの探究活動や図鑑から知ったことを覚えており、新しい虫に出会った際にはこれまでの経験から想像し、自分の考えを話す姿が見られた。

ダンゴムシ



あおむし、アゲハ蝶



セミの抜け殻



カマキリ



アリ



オレンジの仕掛けの中に
砂糖を入れて待っている様子

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

虫という題材は季節や戸外環境の影響を受けるため、計画通りに活動を進めることが難しい場面もあったが、子どもたちと一緒に虫探しを楽しみながら活動を進めることができた。身近な虫であっても、体のつくりや食べ物、雄と雌の違いなど、保育者自身にとっても新しい発見が多く、学びにつながった。

一つの題材を継続して扱うことで、子どもたちは知ったことをもとに考える経験を重ねていた。また、探究活動の中で得た知識や経験をよく覚えており、新しい虫に出会った際にそれまでの経験をもとに考える姿が見られた。

散歩の際の会話も増え、虫や虫の住む場所、食べ物など自然に関する会話を楽しむ様子が見られた。虫を観察するだけでなく、触れたり飼育したりする経験を通して、子どもたちにとって虫がより身近な存在となっていった。